

花 咲 ス ポ ー ツ 公 園
再 整 備 基 本 構 想

2024(令和6) 年 3 月
旭 川 市

目 次

■はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	1
■花咲スポーツ公園の概要・・・・・・・・	2
■花咲スポーツ公園の課題・・・・・・・・	2
■花咲スポーツ公園再整備に向けた基本的な考え方・・・・・・・・	3
■個別施設計画（既存機能維持施設）・・・・・・・・	5
■個別施設計画（既存機能見直し検討施設）・・・・・・・・	6
■個別施設計画（新アリーナ基本構想）・・・・・・・・	7
■今後のスケジュール・・・・・・・・	10

■はじめに

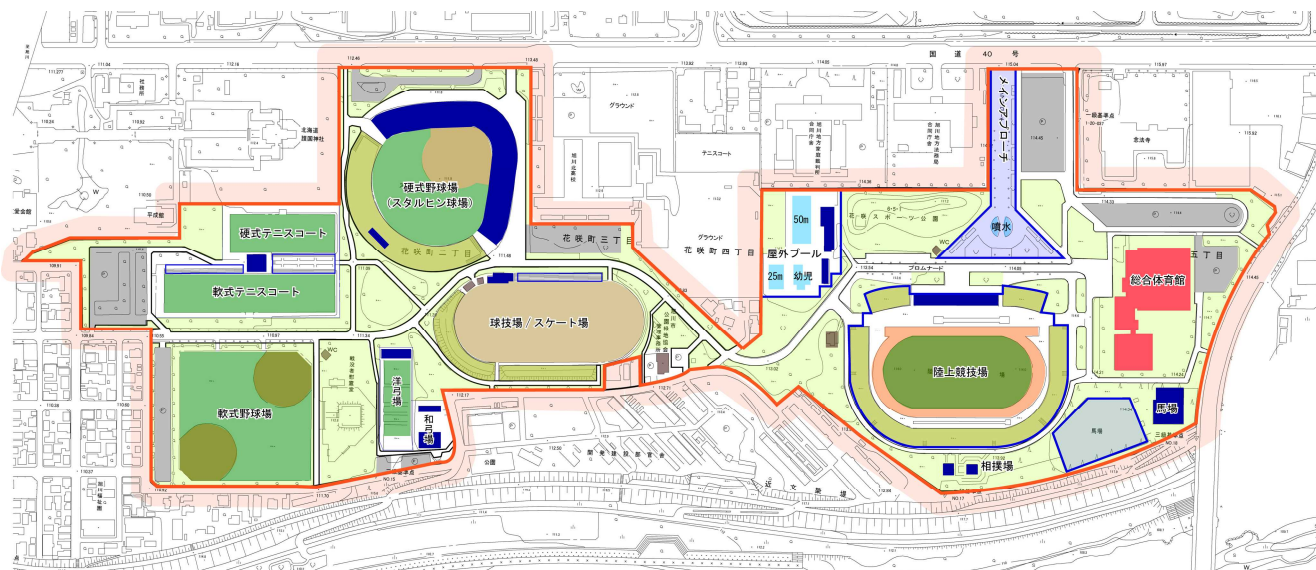
市内には運動公園として、花咲スポーツ公園と東光スポーツ公園があります。東光スポーツ公園は現在、整備中ではありますが、花咲スポーツ公園の機能を補完する役割を担い、各種運動施設の利用状況等の変化を踏まえ計画の見直しを行いながら整備を進め、両公園のそれぞれの施設が連携、機能分担を図りながら、道北地域を代表するスポーツ活動の拠点として機能するよう位置付けています。

花咲スポーツ公園は、気軽にスポーツを楽しめる場として多くの市民に利用されているだけでなく、プロ野球やVリーグなどのプロスポーツや、インターハイ等の全国規模の大会をはじめ、各種競技の全道大会等が毎年のように開催されているほか、地域の大会や日本代表合宿の会場としても利用されているなど、地域におけるスポーツ拠点として、常に高い水準の施設機能の維持が求められます。

しかし、多くの施設が設置後30年以上が経過しており、老朽化が進行する中、施設機能の維持が年々、難しくなってきたおり、施設の補修や修繕、改修などに多くの費用を要するようになっており、将来における適正な施設運営に向け、各種運動施設が抱えている課題の整理等を早急に行っていく必要があります。

一方で、国が策定したスポーツ基本計画（令和4年3月）では、スポーツを「する」「みる」「ささえる」という様々な形での参画を通して、人々が感じる楽しさや喜びをスポーツの本質と捉え、多様な主体が参画できるスポーツ機会の創出やスポーツを通じた共生社会の実現、スポーツの成長産業化、スポーツによる地方創生、まちづくりなどが施策として示されています。また、国のスタジアム・アリーナ改革指針（平成28年11月）では、スポーツ産業の持つ成長性を取り込みつつ、地域経済の持続的成長の実現を目指すなど、新たな施設の在り方が示されており、スポーツによる観光、ビジネスとしての経済効果などが見込まれています。

本基本構想では、これらの状況を踏まえ、多様化するニーズに対応した公園全体の再整備の考え方を整理し、各施設における整備方針について取りまとめるものです。



■花咲スポーツ公園の概要

花咲スポーツ公園は、昭和16（1941）年3月6日、近文公園（運動公園）として開設して以降、用地買収等により昭和51（1976）年に現在の大きさとなりました。その後、総合体育館をはじめ各種運動施設の整備が行われ、平成3（1991）年4月1日に現在の名称に変更し現在に至っています。

2024現在				利用人数推移				
施設名	設置年	経過年	施設概要	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
総合体育館	S54.10.1	44	アリーナ面積1,812㎡、観客席1,494席、バレーボール3面、バスケットボール2面、卓球24面、テニス3面、ハンドボール1面、体操競技	163,382	148,041	84,943	95,573	143,543
スタルヒン球場	S59.4.1	39	面積25,300㎡(プレーグラウンド13,300㎡) 内野：黒土、外野：天然芝、両翼：95m、センター120m、内野・外野スタンド、スコアボード、ナイター設備、収容人数：25,000人	95,523	95,033	15,896	38,218	74,209
軟式野球場	S63.11	35	面積18,313㎡(グラウンド2面)、内野：クレー舗装、外野：芝生舗装、ナイター設備(1面)	28,995	20,256	10,772	11,378	23,295
陸上競技場	S57.9.23	41	第2種公認陸上競技場、面積34,000㎡、トラック・フィールド(全天候型)、メインスタンド(管理棟)、収容人数16,500人	52,373	54,781	30,096	35,183	5,101
馬場	S56.2.1	42	屋外馬場(4,950㎡、砂深15cm) 屋内馬場(延べ面積1,225㎡)、※屋内馬場内に事務室、厩舎等含む	4,949	4,593	4,243	3,666	6,200
洋弓場	S59.4.1	39	面積3,193㎡、的場兼倉庫(標的数12的)、射距離(30.50.60.70.90m競技用)	5,611	4,935	2,396	2,123	3,920
弓道場	S64.1.5	35	面積2,100㎡、射場管理棟、的場(12人立用、距離25m)	15,751	15,470	9,311	8,738	11,646
球技場	S60.4.1	38	面積21,000㎡(プレーグラウンド14,935㎡)、クレー舗装、ナイター設備、スコアボード、管理棟、倉庫、器具庫、収容人数：9,316人	10,808	12,086	3,766	4,627	9,116
硬式テニスコート	S60.4.1	38	全天候型砂入人工芝コート：8面、ナイター設備：6面、管理棟(軟式と共通)	61,364	58,898	41,091	35,170	54,242
軟式テニスコート	S63.4.1	35	全天候型砂入人工芝コート：10面、ナイター設備：6面、管理棟(硬式と共通)	86,961	82,503	50,941	41,424	61,024
プール	S61.9.30 (50mプール H1.10.30)	37 (35)	幼児プール(333㎡、深さ0.3～0.4m)、25mプール(25×15m 7コース、深さ1.0～1.2m)、50mプール(50×21m 8コース、深さ1.4～1.6m)、各種設備、管理棟	3,958	4,181	4,063	6,909	5,467
相撲場	S61.10.31	37	面積1,400㎡、管理棟、やぐら・土俵、収容人数900人	0	0	0	0	0

■花咲スポーツ公園の課題

1 施設の老朽化

公園内の主要施設の9割以上は、建設から30年以上が経過し、耐用年数を超える設備等が増加する中、建築物の躯体自体の劣化も進んでいます。都度、補修や修繕を行いながら施設を使用していますが、施設維持の限界が来ており、適切な対応策の検討が急務となっています。特に総合体育館は、耐震基準を満たしていないため、その利用状況などからも、早急な対応が求められておりますが、改修に際しては建物自体の建替えとなることから、その間の代替施設が必要となります。

2 多様化するニーズへの対応不足

花咲スポーツ公園は中心部に近くアクセスも良好であり、様々なイベントや規模の大きな大会開催時には、競技者だけでなく非常に多くの観客が訪れています。しかし、売店が少なく、トイレは和式が多いなど利便性が低く、多様化する昨今のニーズや、スポーツによるまちづくりなどに対応しきれていない状況にあります。

また、災害発生時の避難場所として指定されてますが、耐震基準を満たしていない総合体育館については避難施設としてではなく、備蓄保管庫としての位置付けにとどまっているなど、全国的にも激甚災害が頻発する中、更なる防災拠点としての機能強化が求められております。

■花咲スポーツ公園再整備に向けた基本的な考え方

花咲スポーツ公園の再整備に際しては、北北海道のスポーツの拠点として、各種大会などを継続して開催できる基盤を維持するとともに、立地特性などの潜在的特性を活かしながら、スポーツ利用のみならず、多様化するニーズを捉えた、地域の賑わいづくりや地域課題にも対応可能な、これまでの公園になかった新しい価値の創出が必要であると考えています。

今後もスポーツ拠点としての高い施設機能の水準を維持していくためには、財政状況も踏まえながら老朽化した施設の状況に応じた改修や更新等の再整備の優先度を定め計画的に進めていく必要があります。また、競技者だけではなく、観戦や応援に訪れた方も一緒に楽しめるなど、賑わいの創出に向けた機能向上など、より幅広い層の利用やニーズにも配慮した検討が必要です。

特に総合体育館については、防災機能も備えた多様な用途に利用できるアリーナとして民間活力導入を視野に入れた、商業施設などの新しい機能や施設の導入を検討しながら、再整備を図り、公園がスポーツ活動の拠点として、更には多くの市民が安全安心に利用できる憩いの場として機能することにより、まちの賑わいの創出や健康で豊かな市民生活の実現を目指します。

【再整備にあたって考慮すべきポイント】

- ・全道大会等の大規模大会開催頻度の高い施設の優先的な施設更新の検討
- ・老朽化が著しく使用に支障がある施設の優先的な施設更新の検討
- ・スポーツ利用者だけでなく幅広い市民が楽しむことのできる施設となるよう、リニューアルや新たな施設の設置を検討
- ・災害時の避難環境の整備を検討
- ・官民連携による財政負担の軽減と平準化を検討

各施設の今後の方向性（2本の柱）

□既存施設の機能維持

【既存機能維持施設】

- ・再整備に際し既存施設の規模や機能を、そのまま維持していく施設
 - >スタルヒン球場
 - >陸上競技場（第2種公認）
 - >テニスコート（硬式8面 軟式10面）
 - >軟式野球場（2面）
 - >弓道場
 - >洋弓場

【既存機能見直し検討施設】

- ・再整備に際し、ニーズ等の変化により機能の見直し検討が必要な施設。
 - >球技場（サッカーコート1面 冬期スケート場）
 - >プール（50m・25m・幼児用）
 - >馬場
 - >相撲場
 - >メインアプローチ
 - >遊戯施設
 - >駐車場（公園内約750台）

□建替え+新たな機能の導入

- ・再整備に際し、新たな機能の導入を検討する施設
 - >総合体育館

■花咲スポーツ公園再整備に向けた基本的な考え方

花咲スポーツ公園再整備基本構想

既存施設の改修と新たな機能の導入を一体的に進め、地域の賑わいづくりや新しい価値の創出を目指し、より効果的な事業構築を図ります。

既存施設の機能維

【機能維持施設】

- > スタルヒン球場
- > 陸上競技場
- > テニスコート
- > 軟式野球場
- > 弓道場
- > 洋弓場

【機能見直し検討施設】

- > 球技場 +人工芝化検討
- > プール +スリム化検討
- > 馬場 +建替移転
- > 相撲場 +廃止検討
- > メインアプローチ +動線再整備
- > 遊戯施設 +集約整備
- > 駐車場 +拡充再配置



建替え＋新たな機能導入検討施設

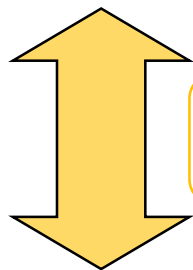
花咲スポーツ公園新アリーナ基本構想

総合体育館の建替えリニューアル

～官民連携による民間活力導入の可能性検討～

> 新たな要素の追加

(防災機能強化・屋内練習場・ニュースポーツ・商業施設等)



花咲スポーツ公園との整合性を図り、計画内容を精査しながら事業を促進

東光スポーツ公園整備事業

個別施設計画

既存施設の機能維持 【既存機能維持施設】

硬式野球場 スタルヒン球場 >1984(S59)年設置 >74,209人(R4実績) >プロ野球や高校野球北海道大会,その他全道規模の大会が毎年開催されている。 	【課題】 築年数40年を迎えて施設全体が老朽化。また,スコアボードなどのシステム更新やナイター照明も設置から10年が経過しており設備更新(LED化)が必要な時期を迎え,改修には多くの事業費を要する。 【基本的整備方針】 プロレベルでの硬式野球が行える施設水準を維持し,施設改修や設備更新を計画的に実施。	陸上競技場 >1982(S57)年設置 >35,183人(R3実績) >道北唯一の日本陸連第2種公認施設で,全道規模の大会が毎年開催されている。 	【課題】 築年数40年を迎えて施設全体が老朽化。日本陸連第2種公認施設として競技水準を維持し,公認継続に必要な施設改修や備品等の更新が必要。放送設備の更新・機能向上や次回公認検定までに一部施設改修が必要。 【基本的整備方針】 日本陸連第2種公認施設として機能を今後も維持し,全道規模以上の大会が開催できるよう改修等を計画的に実施。
テニスコート 硬式・軟式 >1985(S60)年設置_硬式 >1988(S63)年設置_軟式 >115,266人(R4実績) >全道・全国規模の大会開催の他,日常的にも幅広い年齢層から利用されている。 	【課題】 経年劣化による施設が老朽化。管理棟の改修やナイター照明などの設備更新も喫緊の課題。また,人工芝についても競技に支障が出るほど摩耗や損傷が各所で見られ,修繕などでの対応が困難な状況。 【基本的整備方針】 18面ある人工芝のコートは計画的に更新を進め,ナイター照明のLED化など競技環境の充実を図る。	軟式野球場 >1988(S63)年設置 >23,295人(R4実績) >各種大会をはじめ,社会人の朝野球やナイター環境での練習などで利用されている。 	【課題】 経年劣化による施設が老朽化。バックネットの改修やナイター照明などの設備更新も喫緊の課題。 【基本的整備方針】 バックネットなど老朽化した施設の改修を計画的に進め,ナイター照明のLED化など競技環境の充実を図る。
弓道場 >1989(H1)年設置 >11,646人(R4実績) >各種大会や講習会,一般として幅広く利用されている。 	【課題】 経年劣化による施設が老朽化。建物内外において比較的小規模な部分劣化がみられる状況。 【基本的整備方針】 小規模修繕を計画的に実行し,施設の延命化を図る。	洋弓場 >1984(S59)年設置 >3,920人(R4実績) >各種大会や講習会,一般として幅広く利用されている。 	【課題】 経年劣化による施設が老朽化。建物内外において比較的小規模な部分劣化がみられる状況。 【基本的整備方針】 小規模修繕を計画的に実行し,施設の延命化を図る。

個別施設計画

既存施設の機能維持 【既存機能見直し検討施設】

球技場／スケート場 > 1985(S60)年設置 > 9,116人(R4実績)_夏期 > 4,022人(R4実績)_冬期 > ナイター環境での練習などで利用され、冬期はスケート場として利用されている。 	【課題】 経年劣化による施設が老朽化。管理棟の改修やナイター照明の更新も喫緊の課題。また、競技環境向上のため人工芝化が求められ、スケート場との両立に課題がある。スケート場についても昨今の温暖化等気象状況の変化から屋外での安定した環境維持が難しい状況。 【基本的整備方針】 昨今の球技競技のニーズに対応するため人工芝化の検討と、屋外スケート場のあり方について検討する。	屋外プール 50m・25m・幼児用 > 1986(S61)年設置_25m > 1989(H1)年設置_50 m > 5,467人(R4実績) > レクリエーション目的での利用が多く、特に小学生以下の市民に利用されている。 	【課題】 経年劣化による施設が老朽化。管理棟の改修やプール槽の塗装更新も喫緊の課題。屋外のため夏期2ヶ月間のみの開設で、利用者数も低下してきており、現状維持の施設改修でも数億円規模の事業費を要する。利用状況に応じた施設規模の見直しが必要。 【基本的整備方針】 現状の利用形態に合わせ、プール機能を維持しつつ、規模の見直しも含めて改修計画を検討する。
馬場 > 1981(S56)年設置 > 6,200人(R4実績) > 馬術競技の練習や乗馬体験など幅広い利用があり、近年利用が増えている。 	【課題】 屋内馬場は築年数が40年を超え老朽化が進行し、耐震基準を満たしていない状況。設備的な面でも各所で不具合が見受けられ、安全に利用できる環境が維持できない状況。 【基本的整備方針】 施設の建て替えを基本に適正な規模の施設に再整備を検討する。	相撲場 > 1986(S61)年設置 > 0人(R4実績) > 過去には大会が開催されるなど利用が見られたが、近年では利用実績が無く、市内競技団体も解散している。 	【課題】 経年劣化による施設が老朽化。やぐらの改修などが必要な状態ではあるが、利用ニーズも無いことから施設存廃の検討が必要。 【基本的整備方針】 利用ニーズも見込めないことから施設廃止を検討する。
メインアプローチ > 1990(H2)年設置 	【課題】 平板ブロックがガタつき平坦性が損なわれ、歩行などに支障を来し、噴水施設についても老朽化が進行、全面的な改修が必要な状況。 【基本的整備方針】 公園全体の動線計画見直しと合わせて再整備を検討。また噴水施設は遊戯施設の改修と合わせて賑わいに繋がる整備を検討。	遊戯施設 	【課題】 経年劣化による施設が老朽化。立地環境からも利用しにくい状況。 【基本的整備方針】 公園全体の動線計画見直しと合わせて再整備を検討。また噴水施設は遊戯施設の改修と合わせて賑わいに繋がる整備を検討。

■個別施設計画

建替え＋新たな機能導入検討施設

花咲スポーツ公園新アリーナ基本構想

総合体育館の概要

- 設置年
1979(S54)年
- 利用者数(直近3年間)

R4	143,543 人
R3	95,573 人
R2	84,943 人
- 利用状況
市民利用をはじめ、全国・全道規模の各種スポーツ大会やプロスポーツなどが開催され、市内及び道北エリアのスポーツ拠点として機能している。



総合体育館の課題と方向性

課 題

老朽化の進行	築40年以上を経過し老朽化が進行しているほか、メインアリーナは非耐震の状況
代替施設がない	市内及び道北エリアのスポーツ拠点施設であるが、周辺に同規模の代替施設がない
スポーツ施設の不足	市民ニーズに対してスポーツ施設が不足している
機能・設備の不足	プロスポーツや昨今の利用ニーズのほか、スポーツ以外の用途に対応不可
財源の確保	自治体負担の軽減が必要



方 向 性

- ✓ 施設全体の老朽化が進行していること、改修工事期間の代替施設が周辺にないことから改修ではなく、同公園内の別敷地に建替（現総合体育館は解体）
- ✓ 東光スポーツ公園(東光SP)基本計画の複合体育施設とあわせて市民スポーツ推進の受け皿
- ✓ 単なる体育館の建替ではなく、プロスポーツやライブ・コンサートなど多目的な用途に対応したプロフィットセンター(収益の向上を目指す)機能を有する多目的アリーナ
- ✓ 市民の安全・安心に寄与するため、災害時における防災拠点機能の強化を検討
- ✓ 整備コストの縮減や平準化、新たな魅力の創出を実現するため、民間活力の活用を検討
- ✓ 花咲スポーツ公園(花咲SP)全体を地域の賑わいづくりや健康で豊かな市民生活の実現に向けた再整備の中心となる施設

個別施設計画

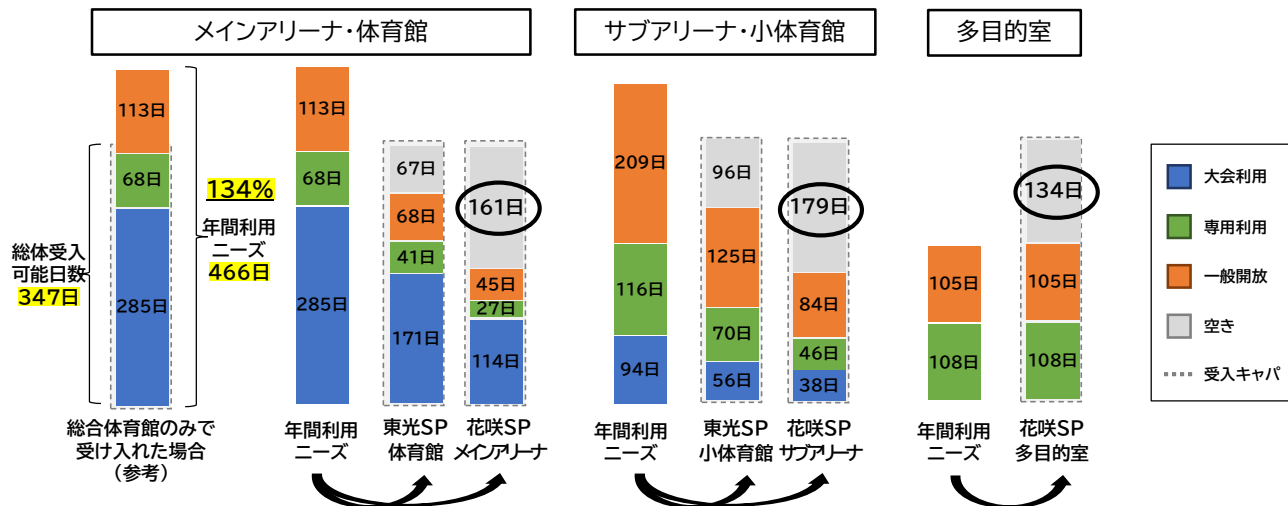
建替え+新たな機能導入検討施設

花咲スポーツ公園新アリーナ基本構想

東光スポーツ公園複合体育施設との役割分担

● 市民ニーズへの対応

(新アリーナと複合体育施設の年間利用イメージ)



新アリーナと複合体育施設の2施設で、市内の利用ニーズを受け入れた上で、新アリーナで興行利用やこれまで制限されていた市民の一般利用の受入れが可能(年間130日程度)

※ 大会利用はH27「旭川市におけるスポーツに関する調査」(土木部)参考
 ※ 専用利用及び一般開放はR4「総合体育館利用実績」参考

役割分担

花咲SP
新アリーナ

- ・ 市民利用+プロスポーツ・興行によるプロフィットセンター
- ・ アリーナを核としてカフェ・商業施設・子ども向け施設など地域活性化や企業立地によるまちづくり

東光SP
複合体育施設

- ・ 市民利用や大会開催等に適したスポーツ施設

花咲スポーツ公園新アリーナ基本構想

新アリーナの概要

● 規模・機能

市民利用の機会確保と興行利用等に対応できる面積や機能・設備を整備

✓ 面積の考え方

メインアリーナ	花咲SP新アリーナと東光SP複合体育施設の2施設で、主要な屋内競技の全国大会開催に必要な面積(競技面数)を確保
サブアリーナ	大会利用時のサブ会場やアップ会場として使用できるよう、競技面積の一番広いバレーボールコート1面分の面積(34m×19m)を確保
多目的室	バドミントンや卓球、格技(柔道・空手・レスリング等)、アーチェリー、ダンス、健康教室など多目的な利用に対応するため300㎡(20m×15m)程度の面積を確保

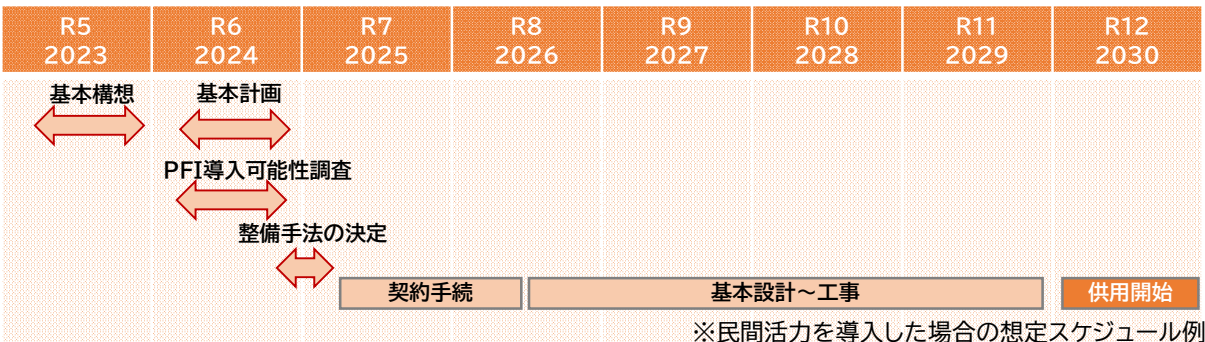
✓ 機能・設備については他都市のアリーナを参考に検討

規模・機能

施設	面積	機能・設備
メインアリーナ	約2,200㎡以上 (バスケット2面・バレー2面・バド12面・卓球20面)	・ 観客5,000人以上収容 ・ 多様な目的に対応する照明や音響設備
サブアリーナ	約700㎡以上 (バスケット1面・バレー1面・バド4面・卓球5面)	・ 必要最小限の観客席の設置
多目的室	約300㎡以上 (バド2面・卓球2面)	・ 多目的な利用に対応可能な設備

※その他、会議室や控室、トレーニング室、キッズルーム、ランニングコース、売店等、市民ニーズにあった機能を検討

整備スケジュール



※民間活力を導入した場合の想定スケジュール例

(参考) 花咲SP新アリーナと東光SP複合体育施設の主な屋内競技面数

		面積	バスケットボール	バレーボール	バドミントン	卓球
花咲SP	メインアリーナ	2,200 ㎡	2	2	12	20
	サブアリーナ	700 ㎡	1	1	4	5
東光SP	体育館	2,860 ㎡	3	3	14	24
	小体育館	950 ㎡	1	1	4	5
2施設合計			7	7	34	54
(全国大会開催に必要な面数)			(4)	(12)※	(20)	(50)

※バレーボールについては、必要面数が多いため5面(計12面)を他会場で確保

■今後のスケジュール

＜令和5年度＞

花咲スポーツ公園再整備基本構想

＞全体的な枠組みと各公園施設の課題を踏まえた整備方針の整理

＜令和6年度＞

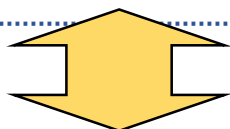
花咲スポーツ公園新アリーナ基本計画

＞整備水準や新たな導入機能を整理し、新アリーナ基本計画を策定

＜令和7年度＞

花咲スポーツ公園再整備基本計画

＞花咲スポーツ公園新アリーナ基本計画と既存施設の改修計画をとりまとめた全体計画として再整備基本計画を策定



東光スポーツ公園整備事業

＞花咲スポーツ公園再整備基本計画との整合性を考慮し事業計画を精査

